



Title	佐藤男 稲田男 共著「世界農業史論」
Author(s)	中島, 九郎
Description	紹介
Citation	北海道帝國大學法經會法經會論叢, 4, 191-192
Issue Date	1936-01
Doc URL	<a href="https://hdl.handle.net/2115/10634">https://hdl.handle.net/2115/10634</a>
Type	departmental bulletin paper
File Information	4_p191-192.pdf



# 紹介

佐藤昌介 共著 「世界農業史論」  
稲田昌植

中 島 九 郎

先頃恩師佐藤先生から其の近著「世界農業史論」を一部惠贈せらるゝの光榮を受けた。本書は菊判五百頁に亘る堂々たる大冊である。その内容は緒論と本論六編及び索引より成る。先づ緒論に於ては農業前代の職業及び其の進化の徑路と古代國民の農業とを説き、次いで本論に入り、第一編に於て日本農業史を論じ、順次編を追ふて支那、獨逸、英吉利、佛蘭西亞米利加諸國の農業史に及び、卷末に地名及人名の索引を附してある。

今本書を熟讀するに佐藤先生の史眼の非凡なることは隨所にこれを發見することが出来る。殊に支那古來の一般的制度文物に筆を起して井田其他の農業制度の史的變遷に及ぶあたり、流石は漢籍に造詣の頗る深い佐藤先生の獨壇場たることを深く思はしめる。北支の資源開發問題が世間の視聽を集める今日、支那農業の由來をば本書に依りて研究することが出

來るのは非常に時宜を得たものであらう。其他英國に於ける土地圍込事業エンクロージユアの沿革や利弊に關し透徹せる論述を進めて居られる。又佛米諸國の農史を述ぶる場合には時々農業地理的方面にも觸れて農史の理解を一層容易ならしめる。

米國農業史の中では、土地制度の變遷は其の中心を占めるものである。佐藤先生は此の問題に關し *History of the Land Question in the United States* と云ふ名著を今より五十年前米國のジョン・ホプキンス大學から出版されたが、此の書は斯界の研究に礎石を据ゑた所の劃期的文獻として海外に於て今尚ほ名聲噴々たるものがある。今回の著書の中米國農業史の項では、土地制度の問題に對し餘り多くの紙面を與へて無い。併しそれでも其の簡潔なる記述の中に先生の蘊蓄を充分に窺ふことが出来る。

世界各國の農史を網羅せる著述は、遺憾ながら今日まで誠

に乏しい。十年前グラスの歐米農業史が出で、邦譯も近頃現はれたやうではあるが、それには東洋の農史を缺き、吾等邦人の研究には不満足な所が頗る多い。然るに幸ひなる哉、學界の待望久しかつた完全なる世界農業史が茲に佐藤稻田兩男爵の妙なからぬ努力に依つて完成されたのである。誠に斯界の爲め慶賀の至りに堪へぬ。卷頭の言葉に隨へば、本書は佐藤先生の札幌農學校時代より北大に至る永き在職中に於ける講義が根本となり令息稻田氏が之れを整理し新粧を凝して世に現はれたもので、歐米農史の記載は大戦前に迄及んで居る。史料の精選と内容の充實とは私から改めて説明する迄も

ない。更にその文章に至ては朗々誦すべきの美辭麗句を以て満たされ、錦上更に花を添えるの觀がある。蓋し近來の名著たるを失はぬ。靜かに本書を読み行く時、私は二十餘年前佐藤先生の農史の講義を聴き、その名講義に陶醉せる當時のことを想ひ浮べ洵に今昔の感に堪へぬ。茲に聊か讀後の所感を述べて恩師の名著を世に紹介し、併せて先生の益々御健在にして、永く學界の指導者たらむことを念願して止まぬ次第である。妄評多謝。(西ヶ原刊行會發行、菊判五百餘頁定價金五圓、送料三三錢)

## 田邊勝正著「戰後歐洲に於ける土地改革史論」

川村 琢

世界大戦を契機とする歐洲に於ける「資本主義是正運動」は、農地に關する限り、從來の土地制度に對する種々な改革となつてあらはれた。その中であつて西歐の強國により世界革命運動を防止する爲に建設せられたと稱せらるゝ東歐諸國の「私有制土地改革はその改革の極めて果斷、急進的なる性質」に於て、「私有制」を前提として而も「從來の土地所有制」から來る弊害を可及的に除去」せんと企圖した點に於て、

自余の改革に對比して、特殊の興味を與へてゐる様である。農林省小作官田邊勝正氏の大著「戰後歐洲に於ける土地改革史論」は、東歐諸國に於けるかゝる興味ある「私有制土地改革」の原因、内容、結果についての詳細なる歴史的研究である。以下本書の簡單なる紹介を試みる。

土地私有制度の下に於ける農地の集中による大土地所有の